

1 ゲームをしよう

子どもたちにとって、スポーツを楽しむための活動として最も魅力的な方法は「ゲーム」です。ゲームでの成功や活躍は、それまでの自分の行動に対しての自信となり、その後の活動への意欲にもつながり、大きなエネルギーとなります。その意味でも、子どもたちが成長していく過程において、「ゲーム」というものをどのように設定し、生かしていくかが重要なポイントです。子どもたちの技術の向上や心身の成長のために、練習は必要であり重要視しなければならないですが、実際に起こることは練習の中で得られるものがすべてではありません。練習ではあらゆる場面の想定に対する対応を準備しますが、未来に起こることへの対応は、実際に体験しないと理解できません。**何が起こるかわからないなかで、準備してきたことが成功したり、失敗に終わったりすることが「楽しいこと」となり、その後の活動への活力につながっていきます。ゲームのために練習をするのではなく、練習のためにゲームをしてみると考えてみれば、ゲームは練習の成果をテストする場ではなく、チャレンジする場へと意識を変えることもできます。**

ゲームについては、子どもたちの成長と年間スケジュールによる練習とのバランスを考えながら、目安として年間30～50ゲームの「楽しいこと」が提供されることで、良いサイクルを生み出すことにつながっていくと考えられています。

2 レベル別にやろう

現在のミニバスケットボールでは小学生を対象としており、6歳から12歳までの子どもたちが一緒に練習をし、ゲームを行っています。この年代では、身体的成長や精神的成長が著しく、その成長スピードも様々です。また、男女による成長の差や生活環境による差もあることから、チームとして同じ環境下での取り組みは、子どもたちを個々に見れば過度なトレーニングとなる場合もあれば不足している場合もあると考えられます。**育成年代で最も必要なのは、強いチームを作るのではなく、個々の子どもの成長に合わせながら最適な環境でトレーニング等を行うことです。**

そこで、各チームのコーチ数が充実し、子どもの年齢や体格だけでなくスキルや成長度なども含め、個々の成長に応じたきめ細やかな指導を行うことが理想です。コーチ数や時間が確保できない場合であっても、グループを分ける、時間帯を分ける、練習メニューを分けるといった工夫をしながら、個々の状態に合わせた指導を心がけましょう。リーグ戦においても、各チームの年齢やスキル、チーム状況に合わせてゲームができるように工夫していきたいところです。

3 複数チームで補欠をなくそう

ミニバスケットボールでは一人でも多くの子どもたちがゲームに出られるようにするため、1ゲームで10人以上の出場が義務付けられていますが、まだまだ「レギュラー」と「補欠」という構図が根付いています。育成年代では、成長段階にある子どもたちの可能性と、何より**バスケットボールを楽しむ**という観点から、**すべての子どもたちにその機会を与える必要があります**。つまり、「補欠」という存在を無くし、**すべてのプレーヤーに必要な練習機会とゲームでのプレータイムを与える仕組みが必要**です。そのためには、学年やレベルによってチーム分けするなど柔軟なチーム編成を行い、練習ゲームや交流ゲーム、リーグ戦の中でプレータイムの確保に務めることが求められます。

「ゲーム」による貴重な体験は、子どもたちの成長に欠かせないものであり、学年やレベルに関係なく等しく与えられなければなりません。所属する子どもたちすべてがプレーヤーであるという認識のもと、練習ゲームや交流ゲーム、リーグ戦では、複数チームでの参加や学年、レベル別のゲームができるような取り組みを積極的に進めるべきです。

